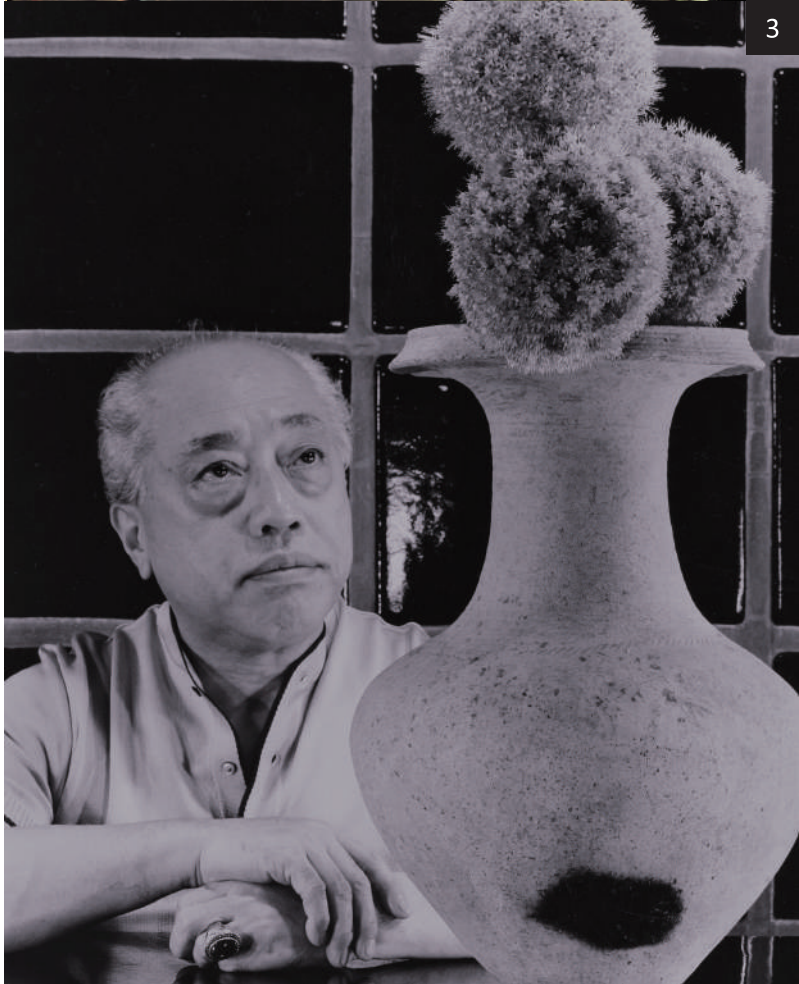




1 2
3



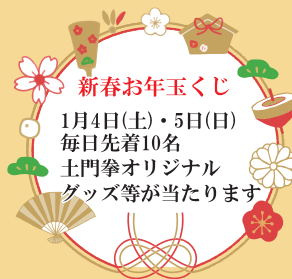
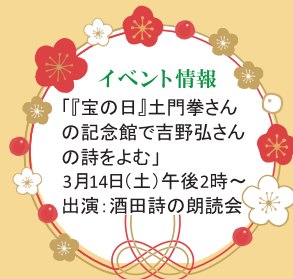
古寺巡礼 執念の第4集、5集 文 楽

土門拳 その周囲の人びと

2020年

1月4日[土]～4月5日[日]

休館日／月曜日（祝日の場合は開館し翌火曜休館）



- 1 『古寺巡礼』三十三間堂内陣雷神像面相
2 『文案』小春「天網島時雨炬燵」紙屋内の段 かしらは娘
3 『風貌』勅使河原蒼風（華道家）

土門拳記念館

Ken Domon Museum of Photography

山形県酒田市飯森山2丁目13（飯森山公園内）

TEL/FAX 0234-31-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

・入館料・

一般 440円、学生 220円／中学生以下無料

・開館時間・

午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）



土門拳記念館展示情報

2020年1月4日(土)～4月5日(日)

休館日：月曜日 ※3月まで。ただし1月13日(月)は開館し、1月14日(火)は休館

*** 新春おとし玉くじ *** 土門拳オリジナルグッズ等が当たります

1月4日(土)・5日(日) 2日間 毎日先着10名

主要展示室

古寺巡礼 執念の第4集、5集

カラー・モノクロ 64点

土門拳のライフワーク、古寺巡礼。今回は中尊寺、西芳寺や石仏群など第4集、第5集収載の作品をご紹介します。

第4集の編集にとりかかろうとした矢先の昭和43(1968)年6月、二度目の脳出血を得た土門は長い療養を余儀なくされますが、写真集を世に出すため「まるで拷問のような訓練に、歯をくいしばって耐えた」といいます。撮影助手をはじめ多くの人々の支え、読者からの激励もあり、第五集の撮影に取り組みます。そうして昭和50(1975)年、第五集の刊行をもって古寺巡礼は完結したのです。第1集の刊行から実に12年後のことでした。不自由な身体をおして撮影に臨んだ土門の執念が感じ取れる作品の数々をご覧ください。

企画展示室Ⅰ

文楽

カラー・モノクロ 49点

昭和16年から18年、いつ赤紙が届くか分からない状況の下、土門は文楽の撮影に打ち込みました。土門が撮影した6000点あまりのガラスの原板は空襲時に自宅の床下に埋められ、撮影から30年余り経た昭和47年、写真集という形でようやく世に出ました。戦時下で若き土門が打ち込んだ「文楽の黄金時代」の貴重な記録です。

企画展示室Ⅱ

土門拳 その周囲の人びと

カラー・モノクロ 26点

土門は自身が尊敬する人、好きな人、親しい人たちを撮影し、それらの肖像はさまざまな雑誌、写真集で発表されました。撮影時に印象的なエピソードを残した人、長く付き合いのあった人、兄弟と称されるほど親しかった人など、土門の周りには常に多くの才能が集っていました。今回は人物写真の傑作「風貌」の中から土門と親交の深かった人物を中心に、エピソードをまじえてご紹介します。

※作品画像提供ご希望の方は domonken@taupe.plala.or.jp までご連絡ください

土門拳記念館

〒998-0055 山形県酒田市飯森山二丁目13番地(飯森山公園内)

TEL/FAX: 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>